

掬水

きくすい

題字・佐藤重義

第 49 号

令和5年3月25日発行

〈事務局〉

秋田市手形学園町1-1

秋田大学教育文化学部
同窓会旭水会 内

ひとり一人にリスペクト

秋田市退職校長会 副会長 伊藤 栄二

令和四年度は、残念ながら大変重苦しい空気の中で過ごさざるを得ない一年間でありました。ウクライナへのロシア侵攻が続き、円安とともに様々な料金が値上がりして物価が高騰し、現在でもとても生活しづらい状況になっています。

秋田市退職校長会でも、コロナ禍の影響を受けて事業を縮小したり、延期したりしています。総会が開催できなかったことや現職・退職校長会教育懇談会が三年間に渡って延期となっていることなどは、本当に大きな痛手でありました。

そのような中でも、会員の先生方には、プライベートな出来事や趣味の分野などで面白い話題に出会い、お健やかに過ごしていることと存じます。

個人的なことでは、知人の会員の先生方からは、次のような明るく魅力あふれる近況を伺っております。東京での書展に作品が展示され高い評価を受けたこと。体力増進を目指し毎日のように打ち込んでいたテニスの話題。あきた芸術劇場ミルハスの素晴らしい舞台装置に感動した話。畑作の最高傑作の収穫までの話等々。

さて話は急に変りますが、ここであらゆるコンビニの映像シーンを紹介します。(注1)

レジで、年配の女性が財布の中から小銭を出しながら、支払いに戸惑っている。

「ごめんさいね。遅くてね。」支払い待ちの長い列。女性のすぐ後ろには色眼鏡を掛けた強面の男がイライラしているように見える。私たちも、日常の中でごくごく普通に目にする一シーンである。しかし、ここで真逆の展開が待っていた。ラップで歌が流れる。

強面の男 ヲYoもしかして焦ってんのかおばあさん 誰も怒ってなんかないアンタのペースでいいんだ

女性 ヲ何もう気にすんな 自分らしく堂々と生きるんだ

女性 ヲ迷惑かけてしまってるなって焦ったら まさかの優しい発言 アタシも反省した目で判断 もう要らないわ色眼鏡なんか

強面の男 ヲみんな違うのあたり前

女性 ヲあたしはあたしで あなたはあなた

強面の男 ヲだれもがでてる

女性 ヲみんなもってる

二人 ヲひとり一人にリスペクト イエーッ！

レジ店員 ヲたたくよりたたえあおう それが優しい世界

店内客全員 リズムに乗って手を振り、声援を送る

昨年の夏からテレビに流れ、大きな話題を呼んだCM映像です。

みなさんの中にもご覧になった方が多いのではないのでしょうか。私は、この映像を初めて見た時、心が大きく揺さぶられたことを覚えていました。

「とても乗りのいいリズムだけど、この歌はいつたい何なんだ。凄いいーそうか、そうだよなあ」そんな思いに駆られながら、歌詞をよくよく噛み締めてみました。

強面の男の「アンタのペースでいいんだ」という優しさに満ちた一言が、焦っていた女性の心を落ち着かせ「もう要らないわ色眼鏡なんか」と返答させます。その掛け合いの温もりが、レジ店員に伝わり「たたくより たたえあおう それが優しい世界」と歌い出させます。そしてその和やかな雰囲気店内客全員の声援へと広がっていくのです。たった60秒のCMの中に、多様性を認め合い、尊重し合うことの大切さが凝縮されています。本CMのディレクターは「人を尊重することは頭で理解していても、つい感情的になってしまう。その実態を再認識させるつくりを意識した」と説明しています。(注2)

ところで、教育界の大きな動きとして、昨年末に「生徒指導提要」が12年ぶりに改訂されたことが挙げられます。改訂の協力者会議の座長を務めた八並光俊氏は、今回の改訂について「子どもたちが安心して自分の意見を言えたり、お互いに支え合ったりできる支持的・創造的な集団をつくらなければならない」と述べています。(注3)

このようなことを踏まえて現職時代を思い起こすと、多くの反省があります。自分は、校長として真に心優しい子どもたちを育てることに注力したであろうか、優しさを上手く表現し、他者に伝える力を身に付けさせる教育を推進させたであろうか、正しいことを正しいと強く主張できる人間を育てる学校経営に努めたであろうか、等々です。

しかし、後ろばかりを向いてはいられません。様々な課題が山積する現状の中、子どもたちに伝えるべき最も大事なことで、そして今、子どもたちに育むべき力とは何なのでしょうか。

私たち退職校長会は、そのようなことを真剣に話し合うことのできる仲間であると同時に、現職の校長先生方とも真摯に議論できる貴重な会であることに誇りに思っているところです。

令和五年度も、引き続きご支援・ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

(注1) ACジャパン 広告キャンペーン「寛容ラップ」

(注2) Adver Times 2022・7・7

(注3) 教育新聞 2022・12・12

進む学校適正配置

今春統合となる学校の
閉校に向けた取組のご紹介

少子化の進展に伴い学校の統合が進められております。令和四年度は上新城小学校が飯島南小学校と、令和五年度四月には太平中学校が城東中学校と、豊岩中学校、下浜中学校が秋田西中学校と統合になります。今春閉校の三校では、閉校に向けて、特色ある素晴らしい取組がありましたので、その取組を紹介させていただきます。

なお、令和六年四月には、下北手中学校が城東中学校と統合になる予定です。

太平中学校

校長 畠山 宏良

太平中学校は、今年度の三月で七十六年の歴史に幕を下ろします。

そこで、閉校に向けた生徒会スローガンを『繋ぐ』歴史を未来へ 感謝を地域へとし、生徒会を中心に、学校と地域が一丸となって記録と記憶を未来につなげるための活動に取り組みしました。

活動の中心は、令和三年度より二年間にわたる「太平中学校ありがとうプロジェクト」です。このプロジェクトは、過去や現在を見つめ母校のもつ価値を再認識し、感謝と誇りの心を醸成することを目的とした活動です。具体的には、

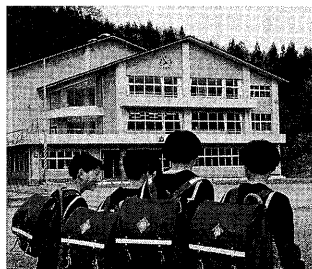
- ・七十六年間の歴史を振り返る年表の制作
- ・インタビューにより学校への思いを記録する活動
- ・学校の姿を映像記録として残すための活動

・心に残る学校生活を形にする黒板アート
・きれいな校舎を未来に引き継ぐための清掃活動

など、多岐にわたるものとなりました。今年度の生徒数はわずか三人でしたが、少ないながらも多くの活動と真摯に向き合い、見事にやり遂げてくれました。

閉校決定後の二年間にわたり、多くの人たちの手によって太平中学校の記録と記憶を未来に繋ぐための活動が行われてきました。そこには、太平中学校に関わるすべての方々がもつ強い絆と母校への深い愛着や郷愁の思いがありました。

生徒を含め、地域の方々のふるさと太平と太平中学校に抱く思いに触れることができたことは、私にとっても貴重な経験となりました。



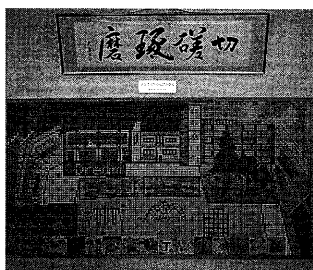
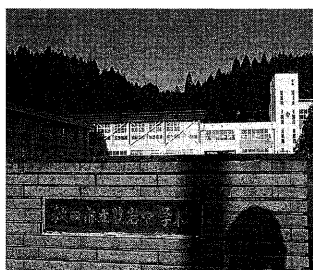
豊岩中学校

校長 渡辺 政文

閉校を迎える本校の校長として、豊岩地域、保護者の皆様への敬意と感謝の気持ちを大切にすることを肝に銘じました。また、一人一人の生徒の思いがこもった生徒会スローガンが、「Dream 豊岩が教えてくれた76年分のありがとう」であることから、目指す学校

像を「みんなのでつくる夢のある学校」とし、「閉校」という機会を、子どもたちが未来に向かつて羽ばたく飛躍の好機と捉え、生徒一人一人に夢や志を育む教育活動や閉校に向けた事業を推進しました。学校農園での野菜の栽培、地域の歴史や伝統、文化、産業についての学び、式典で披露した豊岩豊年太鼓や校舎の利活用プレゼン、感謝の気持ちを込めて式典当日お配りした豊岩ブランドのみそ造り、同窓会執行部の皆さんによる三〇〇〇名にも及ぶ同窓会名簿の作成、吹奏楽部最後のコンサートとなるDreamコンサート等は、その一環として、全てが学校、地域、保護者が一丸となって創り上げてきたものです。

これらの豊かな学びを通して、生徒は多くの人々との絆を深め、心豊かにたくましく成長しました。生徒にも地域にもよき思い出として、心に深く刻まれていることと思います。今後も、本校の記憶が卒業生や地域の方々、本校に勤務した職員の心の中にとあり続けることを、心より願っております。



下浜中学校

校長 三浦 直樹

閉校を迎える最終年、本校は、三学年各七名の計二十一名でスタートしました。「下浜



愛」を合い言葉に掲げ、地域再発見「ふるさと下浜めぐり」の実施や秋田西中学校との交流活動など、閉校や統合に向けた事業を展開し、郷土愛・母校愛の醸成に努めてきました。その成果を発表すべく、十月二十九日、校訓「下浜の海の青さを忘れまい」のテーマのもと、下浜中学校閉校記念式典を挙行いたしました。当日は、卒業生や地域の皆様一八七人が出席し、これまで七十六年築き上げてきた歴史を映像で振り返るとともに、生徒が新たなステージに挑む決意を表わす機会となりました。式典では、伝統芸能「羽川剣ばやし」と「下浜太鼓」の演舞・演奏を披露し、三年生七名の合唱「信じる」と全校生徒による歌と呼びかけ「下浜讃歌」「ふるさと」を発表しました。受け継いできた伝統の優美さと力強さに加え、今の下浜中生の誇り高き姿を示すことができたと思っております。「教職員の情熱が感じられる生徒発表だった。」「新たな世界へ挑む生徒の決意が感じられた。」「など、市長さんをはじめたくさんの方々から納得と共感、感動の言葉をいただき、生徒が満足感や達成感を抱いて式典を終えました。今後とも生徒が、下浜中で培った誇りと自信を胸に、新たな世界でも飛躍することを願っております。

交流のとびら



時

伊東 徹

小生の居場所とは、片面の壁面が全部書棚の洋間(?)で此処にはテレビもパソコンもなく、ラジカセ一台と大きな作業台(机兼)と大きなイーゼルが場を占め、書棚の本もだいぶ整理され、一部は飾り棚になっています。その棚に樺細工の小さな引き出しの付いた時計があり、最近よく止まるので、電池の接触の錆かと、紙やすりで磨いてみました。何のことはない、新しい電池と交換したと思っていたが、古い電池であったのです。最近、こんな事が多々あります。その際、裏面の金字で書かれた文字が目につきました。そこには 贈 秋田市立下浜中学校 職員一同

昭和五十七年 三月 とありました。四十一年前のことです。今年度で下浜中学校が閉校になることに、忘れていた記念品の時計に不思議な思いを感じました。

下浜中学校には十年間勤務し、忘れられない学校の一つです。当時、視聴覚教育や健康教育に力を入れ、ビデオやテレビ番組を活用した授業や放課後に全校生徒で走る、体力走がありました。部活動で野球部に携わったのは此処からです。生徒と一緒に裏山のキノコ狩り、浜でのカニ獲り。私的には自動車運転免許取得、三人の子どもに恵まれたこと、家の改築。それに四十九年の豪雪と思い出は数々あります。

非才な教師であったが、生徒に恵まれ、今も夏にはゴルフに誘ってくれるし、毎年正月

にはクラス会に招待してくれるクラスもあります。送別の記念品により、懐かしい昔を思い出しました。もう少しこの記念品の時計と、一緒に、この部屋で時を刻みたいと思うこの頃です。

(平成十五年三月退職)



「盛春歌」

藤澤 秀男

「まだやつてるのげえ」この言葉は、スポ少の指導者として子どもたちを引率した時に、ある役員から投げ掛けられたものだ。どう受け止めたらいいか戸惑った。確かに、前任指導者から引継いだスポ少指導と、市体操協会の事務局業務が11年、自身で立ち上げた「あきた桜体操教室」も8年になる。

スポ少指導は、そろそろ世代交代し、指導を引き継がなければと思っているのだが、なかなか引き受け手がいないのが実状だ。まあ、子どもたちを置き去りにしてはできないし、自身の健康も考えると80歳までは頑張らなくてはならないのかと思っている。時には、桜の自宅から日新小学校まで通うのが億劫になる時もあるが、スポ少指導を通じて、子どもたちの成長や笑顔に活力をいただいていることを忘れないようにしている。今後も、仲間との関わりを大切に、粘り強くやり続けられるような団員を育成していきたいと思っている。

このように書いてみると、年がら年中体操に染まっているように思われそうだが、冬場だけは別世界である。「まんだらめ」勤務がスキーを始めるきっかけになり、ここ10年来、唯一の楽しみになっている。スキーは体操競技に通じるところがあり、技術を高めていく過程が何とも言われない充実感がある。以前、「大人のバク転教室」を開設した時に切磋琢磨

磨し合った仲間がいたように、スキーでも、三刀流師範S氏によるスキーレッスンはじめ、気心の知れた仲間が多くできた。退職後の人生を跳馬に例え、現在は着手後の第二局面だろうか。この空間局面を楽しみながらも健康で跳び越えることができれば、着地が見えてくると思う。

(平成二十四年三月退職)



下浜自慢

小林 千雪

とうとう、60代最後の一年を迎えてしまいました。びつくりです。この下浜に住んでなんと42年。あの頃は、朝早くには家を出て薄暗くなつてからの帰宅。自分が住んでいるところをじっくり歩いたり見たりする間もなかったのですが、退職してから見つけたわがふるさと下浜の素晴らしきところを今日はちよつぱり自慢してみたいと思います。

まずは、我が家の菩提寺の珠林寺。立派な山門のあるお寺で、村(かつて下浜は由利郡下浜村)を見下ろす小高いところにあります。亀田領三十三観音霊場二十七番札所であった珠林寺。その裏手にあるのがこれまた立派な金毘羅堂。そこから裏山のつくし森に登っていくと、その道すがら何体もの観音様が迎えてくれます。そして、30分ほど登って頂上へ。目の前には日本海。白い波が打ち寄せる海岸線を目で追っていくと向こうには男鹿半島。雄大な景色が広がっています。

さて、再び珠林寺に戻ります。金毘羅堂の麓であるお寺の境内には六二〇〇株以上のクリスマスローズの花が咲き誇る「クリスマスローズの里」があります。見頃は四月いっぱいだそうです。例年四月上旬には花祭りも開かれています。(詳しくはホームページを検索)

そして、最後にご紹介したいのは国道7号線のバイパスとして3年前に開通した「下浜サンセットロード」それはそれは、素晴らしい夕焼けが見られます。日中でも、南に走れば鳥海山、北に向かえば男鹿半島。「下浜の海の青さを忘れまい」三月いっぱい閉校となる下浜中学校に掲げられているとおり、いつまでも心に残る海の青さ。ここがふるさとでよかった、と思える景色です。

これからの季節、ちよつと出かけてみようかな、と思われたときは是非下浜にもお立ち寄りください。

(平成二十六年三月退職)

楽しい研修会情報です!!

研修担当 鈴木 巧

「心も体もリフレッシュ」そんな研修二つをご紹介します。

一つ目は、雄和にある工房「いやしろち」での「陶芸体験」。会員五名が、陶芸家の秋山章子先生の丁寧でポイントを押さえた指導のもと、手びねりによるカップや大皿、ぐい呑みづくりに挑戦。使いやすさ、デザインにこだわりの持ち手の形や厚さを工夫したり、落葉の葉脈模様を生かしたりと、思い思いのアイデアで制作に集中、手作りのよさを感じる作品が出来上がりました。

二つ目は、久々の「秋田の名酒飲み比べ」。駅前の居酒屋に会員十四名が集結。御所野の酒店「地酒やおおた」の主人を講師にお招きし、個性豊かなオリジナル県産酒の勉強会。酒造りにかける熱い思いを感じながら、「しずく取り」「しほり立て」のおいしいお酒と筍の山菜鍋を囲み、お互いの近況報告等で大いに盛り上がりました。日本酒は素人の私も「阿櫻」や「秀よし」の大ファンに。県産

酒の奥深さに触れる楽しい会となりました。◇来年度も、楽しい研修会をご案内します。で、多数のご参加、お待ちしております。

事務局から

○令和五年度年間行事予定

・秋田市退職校長会

監査	令和5年4月13日(木)
理事会	4月22日(土)
総会	4月22日(土)
現職・退職校長会教育懇談会	11月18日(土)

祝叙勲

瑞宝双光章 教育功労

(敬称略)

草薙 重昭 秋田市外旭川
草薙 隆 秋田市飯島

謹んでお悔やみ申し上げます

令和5年3月10日現在(敬称略)

畑江 昭三	令和3年4月20日ご逝去
鈴木 昌	令和4年1月ご逝去
小田原 慎行	令和4年3月23日ご逝去
木曾ひとみ	令和4年4月17日ご逝去
木村 弘亮	令和4年4月23日ご逝去
佐々木 庄悦	令和4年6月7日ご逝去
佐々木 孝	令和4年8月7日ご逝去
高橋 秀雄	令和4年8月7日ご逝去
吉野 平保	令和4年10月29日ご逝去
近江 宏平	令和4年11月28日ご逝去
櫻田 雄一	令和4年12月7日ご逝去
八柳 久夫	令和4年12月30日ご逝去
池田 純雄	令和5年1月5日ご逝去
工藤 宣一	令和5年2月3日ご逝去
佐藤 雄一郎	令和5年2月6日ご逝去
菅原 昭子	令和5年3月5日ご逝去